

開催地名：愛知県東浦町	
開催日時	令和2年2月15日（土） 14：00～15：30
開催場所	東浦町文化センター
語り部	山田 修生 （宮城県仙台市）
参加者	東浦町、社旗福祉協議会、自主防災会連絡協議会、東浦防災ネット等 約100名
開催経緯	<p>当市では、住民の災害に対する危機感の低下や自主防災組織の意識格差、防災訓練参加者の高齢化が問題となっている。今回、町職員や社会福祉協議会、各防災会のメンバーに対して語り部の講演を実施し、防災意識の向上や各組織での活動の促進を図りたい。</p>
内容	<p>（1）防災訓練の実施について</p> <p>総合防災訓練等の各自治体で実施されている防災訓練は、土・日の9時に学校集合といった形で、スケジュールに沿って計画され、実施されている。ところが、災害はいつどこで発生するか誰もわからない。東日本大震災のように、平日の日中に発生した場合は、自宅には主婦や高齢者しかいない。女性中心の防災訓練、要援護者対応について、是非検討をお願いしたい。また、通常の防災訓練では、家庭から1名代表者が参加することでよしとしてしまう傾向が強く、家族全員が、緊急時の対応について共有していない状況である。このような現状を少しでも改善していく必要があると強く思う。</p> <p>また、皆さんは、災害発生と同時に自分が何をやるべきかわかっていると思うが、それでも実際に大規模な災害に直面すれば、このまま死んでしまうのではないかといった思いが頭をよぎり、一定の時間は何も考えられず、何もできなくなってしまう。通常のマニュアル等では、そのあたりの事情については一切考慮されていないので、是非とも、この思考が停止した状態を想定した防災訓練についても、実施を検討いただきたいと思う。</p> <p>さらには、災害時の対応法や行動について、周りの人たちとの連絡会議を日常的に、頻繁にやっていただいたほうがよいと思う。連絡会議の実施から期待できる効果の一つは、自助体制の強化である。災害発生時には自助が基本である。共助・公助は100パーセント期待できない。自主防災会の皆さんが地域の住民や近隣の学校とも連携し、自助体制をどう強化していくかということ、連絡協議会の議題として活動していくことが肝要であると思う。</p> <p>（2）東日本大震災について</p> <p>東日本大震災での私自身の体験をお話したいと思う。私は地震発生時に自宅にいた。突然、地下からすごい勢いで突き上げる感じの揺れを感じた。体が床からポーンと跳ね上がるような感じがした。それから縦揺れ、横揺れ、ななめ揺れと、今まで体験したことのないくらい長い時間揺れが続いた。このまま死んでし</p>

まうのではないかという恐怖感の中、家族の安否を大声で確認するのが精一杯だった。

揺れが収まってから、津波に備えて住んでいるマンションの住民を避難所へ誘導した。これまで実施してきた避難訓練は、町内会の有志が集まったのものだったが、町内会ごとの自主防災組織は全く機能せず、家族、あるいは近所同士といった小単位での避難を余儀なくされたのが実状である。

次に避難する際に役立つものについてお話したい。まずは懐中電灯である。できれば大きいものが望ましい。それと携帯電話、携帯ラジオ、この三つを持って避難してほしい。もう一つ提案したいのは、皆さんの自宅に、家族の皆さんが地震のときに逃げ込む部屋を、可能であれば用意してほしい。その部屋には家財道具も何も一切置かないということが肝心である。もし地震があった場合、家族全員がその部屋に逃げ込んでほしい。何もないので、けがをする心配もない。

また、避難所で困ったことは、寒さや空腹の問題（毛布や暖房設備、食料の備蓄）とあわせて、トイレの問題が挙げられる。単純に数が少ないということの他に、高齢者、体の不自由な方のトイレの問題がある。高齢者や体の不自由な方専用のトイレを設置することを是非検討していただきたいと思う。

(3) まとめとして

自主防災組織の方についても、自分の命を守ることが最優先であることを肝に銘じていただきたい。そして、いつ、どこにでも発生する可能性がある自然災害の怖さを知る機会を、一般市民の皆さんに是非設けていただきたいと思う。そして最後に、身に付けた知識・経験の全ては決して裏切らないということを申し上げたい。そういう意味で、防災訓練は絶対必要である。様々な状況を想定して、訓練を積み重ねていただければと思う。



開催地より

東日本大震災時の体験談を交えながら、わかりやすくお話いただいた。本日参加いただいた自主防災会の方々には、防災について再認識してもらいたい機会になったと思う。